

温州ミカンの春季刈り込み剪定による隔年交互結実

温州ミカンは、気象災害等で樹勢の異常が生じるとその翌年から隔年結果が発生し豊作と不作を繰り返すようになる。発生するとかなり思い切った結実調節をしなければ回復は難しく、逆にその振れ幅が大きくなる。近年は農家の高齢化に伴い緻密な管理ができない実情もあり是正はかなり困難となっている。

このため岩城分場では、隔年結果の防止と省力栽培を目的に、春季の刈り込み剪定による交互結実栽培を開発し、現在実証しており紹介する。

刈り込み剪定の方法

隔年結果は母枝数と関係が深く、母枝の制御ができればほぼ防止できる。このため交互結実法は母枝の多い表年から始め、母枝の削除でその年の着花量を調節する。また春季の剪定時に母枝だけでなく緑枝や細枝の基部を2～3残して刈り込むことで翌年の母枝となる春梢を多量に発生させることができる。春季の刈り込み剪定は着花抑制と新梢確保を兼ねる剪定法である。さらに剪定は植木用の大鋏を用いることで省力化が図れる。



図1 刈り込みせん定の方法



図2 遊休部に発生した夏秋梢の処理法

交互結実の方法

交互結実は、樹園地の栽培目的に応じて様式を変えて行うことができる。現在は4方法で実施しており、成木樹は主枝別交互結実、

幼木樹は樹別交互結実、また作業道に沿った両側の列植樹を列に沿って樹体半分を年度ごとに交互に結実させ遊休部は刈り込み法で樹体の縮小を図り、作業道を毎年一定幅確保する片側交互結実法がある。さらに省力化と生産費の低減をねらって園地を2分し、結実させない遊休園は防除等の管理をできるだけ省く園地別交互結実法がある。どの様式も樹体や園地を生産部と遊休部に二等分し、生産部の樹容積や面積は半分であるが結実量は慣行栽培の2倍を確保できるため、隔年結果が生じない方法である。

交互結実の管理

施肥は従来と同じ量を生産、遊休部ともに行い時期も慣行と同じとする。

摘果は遊休部に結実すれば全て除去し、生産部も行うとすれば、樹上選果とする。

生産部は結果量が多く枝が下垂するが、枝折れの可能性が生じれば枝つり、支え棒等の処理が必要である。

遊休部に発生する夏秋梢は翌年に母枝として利用するか、翌春の刈り込み剪定時に20センチ程度に刈り込み、新梢を発生させる枝として利用する。このため遊休年に基部からは除去しない。

(岩城分場長 脇 義富)



写真2 樹別交互結実

